須賀川市立長沼中学校・令和元年度学校通信

長中だより

第１９号（令和２年１月２８日発行）　発行者 校長 小貫崇明

【１月の生活目標】
〇新年の抱負を立て、
　その実現のために意
　欲的に生活しよう。
・あいさつの徹底
・交通安全の徹底

〇日本陸上競技界のスター相澤晃選手は長沼中の先輩です！

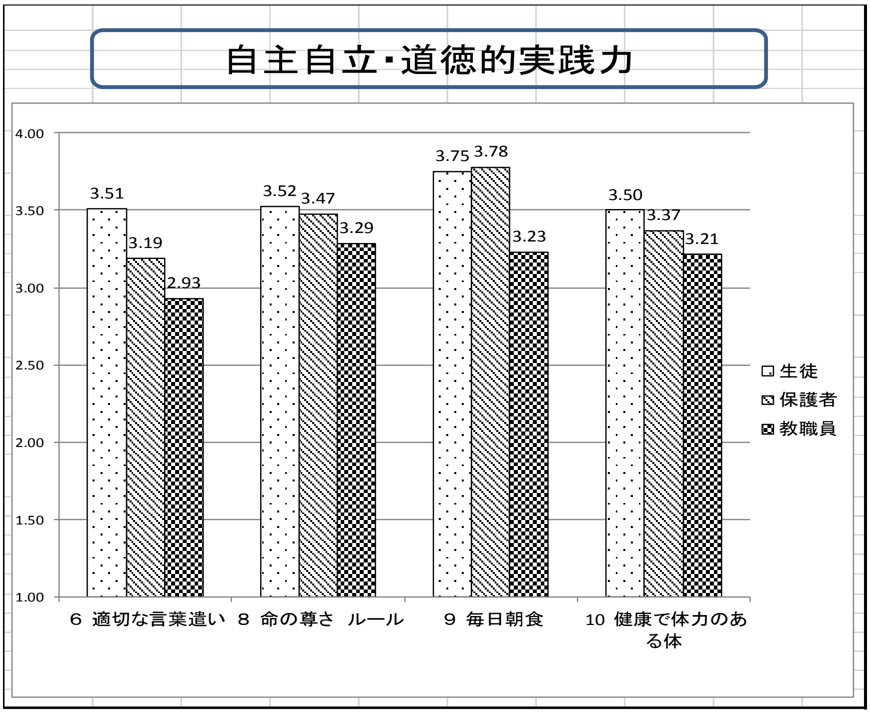
１月２２日（水）、本校の卒業生で、先日の箱根駅伝で２区の区間新記録を樹立し、都道府県対抗駅伝でアンカー（７区）を務めるなどの活躍をした、東洋大学陸上競技部長距離部門主将（４年）の相澤晃選手をお迎えし、小･中学生との交流会（行事名「先人に学ぶ」）を開催しました。

前半のインタビューでは、長沼小や長沼中時代の思い出話、お世話になった先生方との出会い、明治大学・阿部選手などのライバルの存在、東洋大のキャプテンとして心がけたこと、そして、これから目指すオリンピックやマラソンのことについて語ってもらいました。児童･生徒たち、そしてお集まりいただいた１００名近くの地域の方々も、陸上に真摯に取り組む誠実な人柄や、多くの名言からたくさんの勇気と感動をもらえました。特に、「小学校時代は走るのが遅くて鬼ごっこではいつも泣いていた。」というエピソードは、ほのぼのとした話題であるとともに、そんな過去を持つ相澤選手が、今や日本を代表するランナーになったということに驚きを感じました。

後半の実技講習では、ウオームアップのポイントや走り方の基本を実際に示しながら教えていただきました。笑顔で模範を示す相澤選手、児童･生徒たちも笑顔で体操したりランニングしたりする時間は、あっという間に過ぎていきました。そして、相澤選手と一緒に記念写真をとりました。参加した児童･生徒、そしてお集まりいただいた地域の方々は、長沼の誇り、そして日本の陸上競技界のエースである相澤選手の、陸上にかける熱い思いを感じ、これからも熱く応援していきます。がんばれ、相澤晃選手！！

○学校評価の結果から②～教師の目は厳しい！？～

「学校評価」アンケートの結果分析の第２弾です。今回は、自主自立・道徳実践力等に関する評価数値を比較してみました。（前号のデータと右のグラフを参照してください。）



分析②　教職員の理想は高い！

右のグラフからも分かるように、この４つの項目において、すべて教職員の評価が、生徒や保護者に比べて低めに出ています。

特に、適切な言葉遣いに関する評価は、生徒と教職員を比較すると、0.58 の差がありました。

校長として、生徒の言葉遣いが荒れているとは思っていません。ただ、もう少し積極的に自分から発言してほしいという場面は多くあります。先生方は、礼儀（あいさつや返事）も含め、もう少し自己表現（言葉で自分の考えを伝える）してほしいと思っているのだと捉えています。表現する場面があればあるほど、その場や時に応じた言葉遣いが必要になり、結果として入試の際の「面接」などでもしっかりした言葉遣いや態度で、受験することができるようになるのではないでしょうか。

この結果から、「先生方は厳しい」というのではなく、「先生方は常に理想を高くもち、指導に当たっている」とご理解いただければ幸いです。

○田善顕彰版画展～１年・廣田創大君が美術協会会長賞受賞～

第３１回田善顕彰版画展の審査がこの度行われ、本校１年の廣田創大（ひろた・そうだい）君の作品が、「須賀川美術協会会長賞」を受賞しました。創大君が美術の授業で仕上げた版画が、今回大きな賞をいただけたので、学級の友だちはもちろん、美術科を担当する小山教諭や学級担任の尾形教諭も大喜びです。もしかすると、長沼中から今度は未来の芸術家が生まれたのかもしれません。おめでとう、創大君！！（版画展で展示された時点で、「長中だより」か学校ホームページで作品を紹介する予定です。）

★大切にしたい言葉(64)　「雪に耐(た)えて梅花(ばいか)麗(うるわ)し」

我らが先輩・相澤晃選手のインタビューの言葉で、特に印象に残ったのが、この「雪に耐えて梅花麗し」です。梅の花は、冬の雪や厳しい寒さを耐え忍ぶからこそ、初春に美しい花を咲かせ、かぐわしい香りを発する。苦難や試練を耐えて乗り越えれば、大きく見事な成長が待っている、という意味です。

様々な苦労や困難に耐えながら部活動や勉強にがんばっている長中生は、現在もたくさんいます。ぜひ、この言葉を心に留めて、時々思い出しながら努力していってほしいです。